

アコヤガイモニタリング調査結果（最終報）

（調査日：令和4年11月17日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、前月に比較して減少し、中・南部海域で健康度の指標となる3.0%を下回る値となった。
- ・真珠層の褐変個体の出現率は、南部海域ではわずかであったが、中・北部海域では増加した。
- ・貝柱の赤変個体は引き続き確認されず、赤変度合を示すa値の平均値は低かった。
- ・水温は、9月以降、平年値に比較して高めに推移している。
- ・今後、水温が低下していくことから、貝の状態が大きく悪化する可能性は低いと考えられますが、栄養の蓄積が十分でなく、真珠層の褐変個体の増加が確認されていることから、引き続き貝の管理には十分注意してください。

2 調査結果一覧

()内は昨年同月の値、[]内は前月の値

漁場*1	貝の種類 (R3産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	5.3(3.7)	-0.2 (0.2)	0	45% [20]
中部①	日中交雑貝	2.0(5.1)	1.6 (0.2)	0	35% [5]
中部②	日中交雑貝	2.7(5.2)	0.4(-0.2)	0	5% [5]
南部	日本貝	2.9(3.2)	0.7(-0.7)	0	5% [0]
南部	日中交雑貝	1.4(2.5)	0.8 (0.6)	0	0% [0]
平均値		2.9(3.9)	0.7(0.0)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- ・4月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめどに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝（2年貝）。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量 (%)：アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値：閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。